

平成 26 年度 重点指導事項

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「スムーズな試合進行は全国高校野球ファンの熱望」

第 94 回全国高等学校野球選手権大会では、平均試合時間が 1 時間 59 分と、2 時間を切りました。

これは、大会史上、秀逸の出来事といっても過言ではないと思われます。

第 90 回選手権記念大会では、2 時間 14 分を要してしまい、大会運営に携わる関係者、チーム並びに応援団の皆様そして何より、こよなく高校野球を愛するファンの方々に多大な失望を与えてしまったという苦い経験がありました。

全国大会開催にあたっては、試合時間は「2 時間の試合運びと 30 分のインターバル」をベースに試合が展開される様、要請されています。

高校野球では、選手及び指導者がキビキビとプレイに専念いただければ 2 時間以内で終了するものと永い歴史が語っています。

第 94 回選手権大会の快挙は、平素から試合の運営に携わっていただいている 47 都道府県高等学校野球連盟の役員及び審判委員の方々の集大成と深く感謝申し上げる次第であります。今後も、この様な良好な展開が継続していけます様、祈念いたしたいものです。

そこで今一度、スムーズな試合展開に欠かせない審判委員とチーム関係者の心構えを触れておきます。

1. 試合の主役は選手たち

全力プレイで実力を発揮しようとする選手達の姿には好感が持たれます。

しかし、試合進行に当たっては審判委員の裁量なしでは事は進みません。

従って、選手達に協力を求める事も多くなります。

ア) 協力を求めるには、審判委員自らもキビキビ動く。

イ) 指導、指示は正しい言葉使いで解りやすく表現に気を使う。

ウ) 協力をしてくれた選手、ボールボーイ、指導者には思いやりと労いの気持ちを常に持つこと。

2. 思わぬ事態で試合が中断する。

ア) 規則適用に当たっては、日頃から野球規則書等を習熟すること。

イ) 打球、送球には最後まで確認する。

ウ) 審判幹事、控え審判も試合中は集中する。

エ) 規則適用上、疑義申し出があった場合、当該審判委員が協議した結果、それが最終回答となる。

本年も全国の加盟校と高校野球審判委員の皆様と共に汗を流し、国民的スポーツである高校野球の精神を受け継いで行きたいと思えます。

高校野球の勝利は目標であり、**目的**ではない。

以 上